



鶴見大学歯学部 斎藤一郎教授に聞く

「最近、口の中がネバネバするなあ」ということは、ないだろつか。唾液の分泌量が減ると起つて、いわばありきたりの症状と見過しがちだ。ところが、これが悔れない。唾液の分泌量が減

り続けるのは、「ドライマウス」という立派な病気。放置すると、高血圧症など生活习惯病を後押ししてしまつのだ。専門医に「歯周病と高血圧」の新常識を聞いた。

9

# 歯周病と高血圧のたどならぬ関係

## 唾液の分泌量の低下が高血圧を後押し

ドライマウス治療の第一人者、鶴見大学歯学部の斎藤一郎教授が説明する。

「唾液は、単に口の中を潤す（うるお）し、粘膜を保護する働きだけではありません。

抗菌成分など身体の健康を維持するために、重要な成分が含まれているのです。唾液量が減ると、口の中に悪い細菌が増殖して歯周病になり、さら

に高血圧症などの生活習慣病を悪化させます」

斎藤教授によれば、唾液は1日約1・5トルも分泌され、

（うるお）し、粘膜を保護す

る働きだけではありません。

抗菌成分など身体の健康を維持するために、重要な成分が含まれているのです。唾液量

が減ると、口の中に悪い細菌

が増殖して歯周病になり、さ

らサイズで、その炎症を歯周病は広げます。炎症が起こ

へつながるのだ。この歯周病こそ、高血圧症などの関係が深い。

食べ物のや空氣と一緒に口に

侵入する雑菌などを排除する役割も担う。この唾液分泌が

減ると口の中で雑菌が繁殖

し、歯と歯茎のすき間から侵

入して炎症を起こし、歯周病

へつながるのだ。この歯周病こそ、高血圧症などの関係が深い。

食べ物のや空氣と一緒に口に

侵入する雑菌などを排除する役割も担う。この唾液分泌が

減ると口の中で雑菌が繁殖

し、歯と歯茎のすき間から